

高石市教育委員会定例会会議録

(令和7年10月定例会)

開会及び閉会の年月日時

開 会	令和7年10月8日 午後3時00分
閉 会	令和7年10月8日 午後3時27分

会議に出席した者の職及び氏名

委 員	教 育 長 : 山 本 圭 作 委 員 : 佐 野 慶 子 委 員 : 西 村 陽 子 委 員 : 吉 村 文 一 委 員 : 西 村 朋 恵
事務局職員	参 与 併 教 育 部 理 事 : 山 本 富 之 教 育 部 長 : 石 坂 秀 樹 教 育 部 次 長 兼 社 会 教 育 課 長 : 沼 守 政 光 教 育 部 次 長 : 石 栗 雅 彦 教 育 部 次 長 : 山 崎 陽 子 教育部こども未来室長 : 家 村 美 雪 教 育 総 務 課 長 : 吉 村 智 博 学 校 教 育 課 長 : 菅 原 庸 晴 教育総務課長代理 : 水 谷 亘 社会教育課参事兼 課 長 代 理 : 船 富 学 学校教育課参事兼 教育研究センター所長 : 黒 井 将 典 学校教育課長代理 : 山 川 喜 三 こども家庭課長 : 乾 直 史

議題及び議事の要旨及び議決事項

・ 議案第1号 令和7年度全国学力・学習状況調査結果公表について

学校教育課長	<p>議案第1号「令和7年度全国学力・学習状況調査結果公表について」説明します。</p> <p>本議案は、今年4月に実施しました全国学力・学習状況調査の本市小中学校の調査結果の公表について、承認いただくものです。</p> <p>「学力調査の結果概要」として、本市小中学校における各教科の学力に関する分析の部分と質問紙調査の結果概要として、質問紙調査の分析からの学習状況に関する部分、また、その両方の分析から見えてきた課題とそれに対する高石市教育委員会及び学校の取組み等について、公表するものです。</p> <p>学力調査は、小学校6年生では、国語・算数・理科、中学校3年生では、国語・数学・理科が実施されました。</p> <p>理科については、3年に一度実施となっているものです。</p>
--------	--

	<p>質問紙調査は、小学校 6 年生と中学校 3 年生の児童生徒の学習意欲・学習方法・学習環境・生活の諸側面等に関する内容についての質問が出されました。</p> <p>結果概要については、課長代理より説明します。</p>
学校教育課長代理	<p>令和 7 年度全国学力・学習状況調査の結果概要について、説明します。</p> <p>別冊資料「令和 7 年度全国学力・学習状況調査」は、令和 7 年 4 月 17 日に市内公立小中学校の小学校 6 年生と中学校 3 年生で実施した調査の結果を高石市全体で集約し、まとめたものです。</p> <p>1 ページの学力調査の結果概要ですが、今年度の調査教科は、小学校では、国語・算数・理科、中学校では、国語・数学・理科の調査がありました。中段やや下の方の「平均正答率からわかる本市小・中学校別結果の概要について」は、小学校の国語は、大阪府平均と同等、全国平均を下回り、算数・理科は、大阪府平均、全国平均ともに下回る結果となっています。</p> <p>中学校では、国語・数学・理科いずれも大阪府平均、全国平均を下回る結果となっています。</p> <p>それでは、校種、教科ごとにもう少し詳しく説明します。</p> <p>2 ページには、小学校の学力調査の結果を示しています。上段には、各教科の平均正答率と無解答率の表を記載しています。左から高石市、大阪府、全国の結果、高石市と府の結果と比べた差を「対府差」、全国の結果と比べた差を「対国差」として、プラスマイナスの表記で示しています。</p> <p>2 段目には、各教科における対全国比の経年比較を折れ線で表したグラフを記載しています。平成 30 年度は、主に知識を扱う A 区分と主に活用を扱う B 区分を別々に表記していましたが、平成 31 年度以降は、この区分がなくなったため、1 本の折れ線で示しています。</p> <p>3 段目の右側の表は、各教科の領域別平均正答率を示したもので、一番左に各領域を記載しており、「市」の欄は、高石市の平均正答率、「府」・「国」の欄は、それぞれの平均正答率、「府比」・「国比」の欄には、領域ごと大阪府及び全国の平均正答率を 100% としたときの高石市の平均正答率の割合を示したものとなっています。</p> <p>小学校の各教科の状況について、説明します。</p> <p>国語については、平均正答率が全国より 1.8 ポイント下回っており、領域では、特に「話すこと・聞くこと」「読むこと」に課題が見られました。対全国比の経年比較は、令和 7 年度の結果が 97.3% で昨年度の結果と比較しますと 1.7 ポイント程度下降しました。</p> <p>算数については、平均正答率が全国を 2.0 ポイント下回っており、領域では、特に「数と計算」「変化と関係」「データの活用」に課題が見られました。対全国比の経年比較は、下降傾向がみられ、令和 7 年度の結果は、96.6% で昨年度と比較しますと 2.8 ポイント程度下降しました。</p> <p>理科については、平均正答率が全国を 4.1 ポイント下回っており、領域では、特に「生命を柱とする領域」に課題が見られました。対全国比の比較は、令和 7 年度の結果が 92.8% で前回と比較しますと 2.8 ポイント程度上昇しました。</p> <p>続いて 3 ページには、中学校の学力調査の結果を示しています。</p> <p>国語については、平均正答率が全国より 4.3 ポイント下回っており、領域では、特に「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に課題が見られました。対全国比の経年比較は、平成 31 年度より</p>

り令和５年度までは上降傾向となっていました。令和７年度の結果は、92.1%で昨年度の結果より、0.8ポイント程度下回る結果となっています。

数学については、平均正答率が全国より6.3ポイント下回っており、領域では、特に「関数」「データの活用」の領域に課題が見られました。対全国比の経年比較では、年度により上下が見られ、令和７年度の結果は、87.0%で、昨年度の結果より、2.5ポイント程度下回る結果となっています。

理科については、平均正答率が全国より5.3ポイント下回っており、領域では、特に「生命を柱とする領域」「地球を柱とする領域」に課題が見られました。対全国比の令和４年度との比較は、下降しており、令和７年度の結果が90.0%で前回と比較しますと1.0ポイント程度上昇しました。

小中学校ともに、各教科の問題の中で、特に課題のあった問題を12ページから17ページに取り上げています。それぞれの問題において、どのような力が求められているのか、そこから、本市の児童生徒にどのような課題が見られるのかを考察しています。

続いて、４ページの「質問紙調査の結果概要」ですが、今年度の調査でも、教科に関する調査と同様に学校生活や授業、生活習慣等に関する質問紙調査が実施されました。このページでは、高石市の子どもたちの学習状況、生活習慣の特徴や課題が見えるところを抜き出し、まとめています。

④⑥の項目では、小中学校とも前年度より数値が向上しています。

⑨⑫の項目では、小中学校とも全国を上回るなど改善が見られました。

⑬の項目では、小学校は全国を上回りましたが、中学校は課題が見られました。

②③の項目では、小中学校とも全国を下回りましたが、中学校は昨年度より改善が見られました。

⑤の項目では、小学校は昨年度より上昇しましたが、中学校は課題が見られました。引き続きいじめは絶対に許されないという意識が向上するよう取組みを進めていきます。

また、中学校における①の「朝食を毎日食べていますか」の項目、小学校における⑧の「家庭学習の時間が30分より少ない」の項目について、課題が見られました。

また、⑦の「学校の授業以外の読書時間が30分より少ない」の項目では、小中学校とも課題が見られました。課題解決に向けて、引き続き家庭と連携を図りながら、継続して啓発を行っていきます。

続いて、５ページの「調査結果から」は、「教科に関する調査」「質問紙調査」全体をまとめて分析・考察したものです。

学習面では、「基礎的な知識・技能の定着と活用」「情報を整理・分析し、重要なものを主体的に考え、適切に活用する力」「判断したことを根拠に基づき、言語・数値を効果的に用いて相手に分かりやすく伝える力」の３つを特に重点をおく学習活動として、取組みを進めていきます。

先ほど、質問紙調査の結果概要で説明したように「朝食を毎日食べていますか」については、小学校では数値の改善が見られましたが、中学校では、昨年度より低くなっています。

また、家庭学習の時間については、中学校では数値の改善が見られましたが、小中学校とも全国より時間の確保に課題が見られました。

	<p>この課題は、スマートフォンの所持率や使い方にも関係しているものと考えています。そこで健康な生活習慣、家庭学習、情報モラル教育に関する取組みについて、ご家庭へ協力をお願いと 10 ページ、11 ページに家庭での過ごし方等を参考にいただける資料及びワークシートを掲載しています。</p> <p>次に、6 ページの「教育委員会による学校への指導助言事項」においては、各校がこのページの①～⑤に記載している取組みを推進していけるよう指導主事が重点的に指導助言を行っていきます。</p> <p>7 ページ・8 ページの「学校での取組み」においては、今年度の調査結果を受けて、各小中学校が自校の結果を分析しています。</p> <p>5 ページの「調査結果から」にまとめた課題、「学力向上の取組み」をもとに各校それぞれの課題に正対し、課題解決に向けた具体的な取組みについて、全教職員が徹底して取り組んでいくことを記載しています。</p> <p>続いて、9 ページの「家庭・地域にご協力いただきたいこと」において、質問紙調査の結果より、「健康な生活習慣」や「家庭での時間の使い方」に課題があることから家庭における「朝食をとること」「家庭学習の充実」「スマートフォン等の使い方の改善」「読書機会の設定」を図るため、各家庭への啓発内容、協力いただきたいことについて記載しています。</p> <p>10 ページには、参考資料として、健康な生活が送れるよう「三つの朝運動」、家庭学習を行うヒントとなるポイント等についてまとめたリーフレット「家庭での過ごし方について」、大阪府教育委員会から配信されている「情報活用能力ステップシート」となっています。</p> <p>また、デジタルドリルは、10 月の端末更新により、児童生徒一人ひとりに配布されたタブレット端末に入っている「ラインズ e ライブラリ」等の紹介をしています。</p> <p>11 ページには、教育委員会から配付しております「家庭でのタブレット端末の使い方」「ケータイ・スマホの使い方」のリーフレットを掲載し、紹介しています。</p> <p>今後も学力向上に関する方策だけでなく、子どもたちの生きる力の育成をめざして各家庭にも協力をいただきながら、教育委員会としても取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>以上、令和 7 年度全国学力・学習状況調査の結果概要についての説明を終わります。</p>
佐野慶子委員	<p>5 ページの「調査結果から」の真ん中当たりで、「学校へ行くのが楽しい」「人の役に立つ人間になりたいと思う」は、数値が上昇し、キャリア教育を進めた効果が見られ、非常に安心しました。</p> <p>6 ページの「教育委員会による学校への指導助言事項」、7 ページの「学校での取組み」のところでは、真摯に結果を考察していただいて、各小中学校が取組みを考えています。この調子で子ども達に生きる力を育てていただけたらと思います。</p>
採決	可決

・ 報告第 1 号 教育委員会の後援等に関する報告について

教育総務課長	本報告は、高石市教育委員会の後援等に関する規程第 2 条第 1 項の規定に基づき処理したものについて、同条第 2 項の規定により、8 ページ、9 ページ記載の社会教育課 12 件の報告をするものです。
山本教育長	報告があったものとして処理します。

・ 報告第 2 号 教育委員会関係諸行事等の報告について

各所属長	令和 7 年 9 月 1 日から令和 7 年 10 月 7 日までの当委員会関係諸行事について説明。
山本教育長	報告があったものとして処理します。